

オンラインワークショップ「札幌の生き物を守るために語ろう」  
～市民参加による生物多様性保全のこれまでとこれから～

実施日時:令和 4 年(2022 年)2 月 23 日(水・祝)14:00～16:00

応募人数:15 名、当日参加者 9 名

1 グループワーク 1

テーマ 1:どのようなきっかけがあれば、生物多様性の保全に関心を持つか

(1) グループ①

○「お気に入りの生き物とお気に入りの場所」

進行役 鹿児島出身 鳥が好きで北海道に来た。野幌森林公園で天然記念物のクマゲラを見てびっくりした。バードウォッチングが好き。

参加者 1 愛知県出身 大学から北海道へ。もともと動物が好き。文鳥を飼っていた。4年くらい前からバードウォッチングを始めた。近所の平岡公園には様々な鳥がいる。その年によって見られる鳥に変動がある。食べ物に関係しているのか。そこから生物多様性に興味を持つようになった。

参加者 2 もともと動物は好きという訳ではなかった。札幌市環境局の気候変動ゼミでの外来種のカエルの話とヒグマの話を聞いて興味を持つようになった。調べていくうちに子供たちに伝える仕事をしたいと思い転職した。今はそういう仕事に携わっている。シマエナガの授業をしたら申し込みが殺到し、人気ぶりがうかがえた。子供はかわいいから入る。参加者からはかわいいものを守りたいと思ったという感想が多かったのでそこから入っていくのもいいのではと思った。

参加者 3 真駒内に住んでおり、文鳥を飼っている。鳥を飼い始めてから道端の鳥や野鳥に愛着を持つようになった。最近はカラスに興味を持っている。適応力と頭の良さに気が付いた。庭の梅の木に色々な野鳥が来る。札幌の自然の力はすごいと思う。父親が研究者なので鳥の図鑑を小さい頃から見て名前を知っていた。

○「家族や友人は生物多様性に興味を持っているか。自分が伝えるとしたらどうするか」

参加者 1 主人がシマエナガを見たいと言ったことがバードウォッチングを始めたきっかけ。近所の人には平岡公園で色々な鳥が見られるという事をほとんど知らない。身近な自然に気づいていないのはすごくもったいないこと。

参加者 2 関心があるということ、意識高いと言われる。自分ではそう感じてはいないが、意識高い人とそうじゃない人の色分けがされていると感じる。興味関心のない人達をどう巻き込んでいくかというのがテーマなのでは。

進行役 仕事柄、無関心な人たちを巻き込んでいく事が課題である。身近な場所で色々な生き物がいるという事に気づいていない。特別な事ではなく、四季がある札幌だから色々な生き物が楽しめるという事を伝えられたらいい。

参加者 3 鳥だけではなく鮭、魚、リスやキツネも好き。理系だと物理と化学を選択するので受験に関係のない生物に興味を失ってしまうのか、友人とは話はそこまで盛り上がらない。

## (2) グループ②

○好きな生き物と自己紹介

参加者 1 マラソンしながら新川を通る。夏から秋に向けて鮭の遡上を見られるので川に目が行く。

参加者 2 哺乳類が好き。学校が野幌森林公園近くにあり野鳥をよく見る。携帯で写真を撮ったりする。

参加者 3 家庭菜園でイチゴを栽培している。野菜やキノコなんかも栽培している。生物というより食べ物についてよく考える。栽培するにあたり土や微生物などにも興味を持っている。

進行役 蛇が好きだがあまり見る事が無いのでカエルなどよく見ている。キイチゴが好きで食べたりしている。蛇イチゴはイチゴとは別。蛇はイチゴを食べない。市内に蛇は 5 種類いる。マムシもいる。

進行役 野幌森林公園が好きでよく行く。特に虫が好き。

「生き物について考えるのはどんな瞬間？ヒグマの報道があった時どう思ったか」

参加者 1 餌がなくなってきたりして周りの環境が変わってきたのか。

参加者 3 都市と森の境界に里山が無くなった事でヒグマが街にでて来ているのではないか。自宅近辺(中央区)でキタキツネをよく目撃する。

参加者 2 学校でスズメバチに遭遇した。生物の授業中、電気を消して静かにしたらいなくなった。

参加者 1 きっかけとして危険があったら意識するかも。そういう話は周りの人とはしない。

参加者 3 家庭菜園をやるようになって、生物は繋がり合っていると考えている。コバエも自分にとっては生物の繋がりの中で必要と思っているので殺さないようにしている。

カブトムシのふんなども鉢の肥料にしたりしている。

自分の食べているものが何か、健康の元は何かを考えたのが家庭菜園のきっかけ。どうしたら植物にとってもいい環境になるか。生物多様性が関係しているという事を考えるようになった。  
参加者 2 授業で市民公園へ行った際、植物のスケッチをしたときには話をする。普段はカラスの話をするくらい。深い話はしない。

進行役 一步踏み込んで観察したりすると面白いなと感じたり広げたりできるのではないか。札幌はそういう環境に恵まれている。

進行役 札幌は生き物に接する機会が多い。

○「どのようなきっかけがあれば、生物多様性に関心を持つか」

- ・危険を感じるような事が起こった時
- ・食べる物から入っていくのはどうか。地産地消も多様性に関係していると思う。
- ・野草やキノコ狩りなどする事も接点になるのではないか。
- ・自分で生き物を育ててみるのがいいのでは。好きな所から少しずつ知識・世界を広げていくのがいいのでは。
- ・猫を散歩に連れていくとスギナを食べたりする。外に出ないとわからないことがあると思う。

### (3) グループ③

○「生き物に関心を持ったエピソードなど」

参加者 3 赤とんぼを家の庭で見つけて、網で捕まえた。写真も撮って記録した。キツツキも見た。

参加者 1 札幌ドームの近くにある小さな森でバードウォッチングする。シジュウカラやヤマガラ、キツツキ、リスもいる。時間帯は日中がよい。双眼鏡を持っていくとよく見える。

参加者 2 外に出た事。動くものに興味を持ったり、野鳥の声や音が聞こえたりした事がきっかけ。

参加者 3 自然が好き。わかると面白いと思う事がある。詳しくなりたいという気持ちはある。あいの里に住むようになって見たことのないものを見る機会が増えて興味が出てきた。

参加者 1 地球温暖化についてテレビで見て、小さな子供たちにいい地球を残したいと気持ちが出てきた。地球環境をよくするために自分で出来る取り組みとして、肉食から野菜に変える取り組みをしている。

「続けていこうと思ったきっかけとなった事は？やってみて楽しかったこと」

参加者 3 散歩に行くときに本を持って出かけている。見つけたものに○をするのが楽しい。エゾリスが庭に来て感動した。

参加者 2 藻岩山の中腹に住んでいる。青い鳥(オオルリ)を上から見た時に感動して、そこから野鳥が好きになった。

## 2 グループワーク 2

テーマ 2:生物多様性の保全について、どのような取り組みがあれば参加したいと思うか

### (1) グループ①

○「こんな取り組みをしている、これからこういう取り組みをしていきたい事」

参加者 3 今はボランティア活動していないが、山鼻川の水量を減らす計画があり豊平川の水温を調べたりした。鮭の産卵にも関係している。市民が出来ることには限界がある、行政ができる保存活動と市民のつながりを増やしてはどうか。

参加者 2 環境の事を考えるようなイベントを子供と大人も学べる場所を作る。地域という言葉にハッとした。鮭の産卵地が自分の家の近所だった。地域密着型の情報などを子供たちに伝えられる仕組みを考えられないか。

参加者 1 身近でできることは何か考えている。公園の中のゴミ拾いなど。コロナ前は平岡公園の草木を見て歩く催しに参加していた。植物の名前だけ知って終わるのではなく、ボランティア活動を組み入れていくと勉強にもなるのでいいのでは。公園により色々な鳥が見れる。主軸になるような動植物を守る取り組みをしているという事を打ち出していくといいのでは。

進行役 講師が解説し、参加者は学んで終わるパターンが多い。ステップアップしていく講座で知識を深め、調査員やボランティアに発展していく仕組みを作ることができればいいのではないか。

参加者 3 興味がある人じゃないと続かないし参加してもやりがいを感じにくい。興味がある人材を育成する教育の在り方や色々な人を巻き込んでいける愛好家がどんどん発信していければいい。生物観察は興味を持つステップとしていい活動で重要だと思う。

参加者 2 直接ではなく子どもの好きな事に関連させて外へ連れ出す。入口が違う方が入りやすいのでは。生物多様性に結び付く入口を色々作っていく。

参加者 1 野生の鳥に餌をあげてはいけないが、エサ台を作って観察用するのはどうか。ワイルドライフガーデンのようなものを公園の中に作り窓越しに観察できるような場所を作る

など。

参加者 3 大きな公園は道や市が管理していて実態がわかりづらい。そこをわかりやすくして市民と公園との距離が近くなるといいのでは。

## (2) グループ 2

○「自分たちがやれる事は何だろうか。食べ物から考えていく場合、野菜の切れ端はどう処理するか？」

- ・水に浸して育てて食べる
- ・普通に捨てる
- ・堆肥化する
- ・生ごみの水切りをよくすることで燃料使用を減らす
- ・やっていることは省エネ対策の延長かもしれない

○「イベントや活動に参加する際、ハードルの高さとは何か」

- ・郊外に行かないとできない
- ・大通公園など中心部でイベントがあると参加しやすい
- ・山に行かないとできない
- ・わざわざ感がある
- ・日常の延長線上にイベントがあると参加しやすい
- ・イベントがあることを知らず、参加したくても出来ないという人もいると思う。地下鉄の掲示板や札幌市内の色々な人が目につく場所に広告やポスターなど貼るといいのでは
- ・公共交通機関で行けるアクセスしやすい場所でイベントがあると参加しやすいのでは

○「具体的に参加したいと思える取組などはあるか」

- ・”池の水全部抜く”のようなものはどうか。
- ・保全が目的で実際に森など行くとしても見て実感するだけ。実際に自分自身が理解して皆に広めていく活動が大事ではないか。自然を壊さないよう元に戻していくには、普段の生活を見直す事(無駄な買い物をしない、生ごみを減らすなど)が大事。
- ・このようなミーティングに参加することで知識を広げていったり、きっかけをつくる。
- ・自分や家族の健康を考えた時、今食べているものや、環境を見直すきっかけとなった。
- ・食べ物や環境などの話を教科書に載っていること以外にも授業で取り扱ってほしい。
- ・知る機会がもっとあるといい

### (3) グループ 3

○「生物多様性について具体的にどういう活動がそれに該当すると思うか」

○「こんなものがあつたらいいなと思う事」

参加者 2 草地だったところを田んぼに戻す活動をしている。エゾサンショウウオ、エゾアカガエルが復活してきた。作業していると色んな生き物に遭遇する。そういった活動をしているところに出向くといいのでは。名前がわからない生き物でもだんだん詳しくなっていく。自分で食べる物を自分で作ろうという思いから始まった。

進行役 食べたり、音で聞くなど色々な事をやってみるというのも生物多様性に関わるという事になる。

進行役 色々わかってくるのが楽しいと思う。詳しくなくても参加できる場があるといい。

参加者 1 北海道の野鳥図鑑を見ながら一人で野鳥を探す。鳥のさえずりを収めた CDなどを聴いたりしている。野鳥の会は初心者過ぎて恥ずかしいので独学でやっている。自分のペースでやっている。

参加者 3 学校からチラシをもらってさっぽろ生き物探しに参加した。他にあるかと思ったが無かった。子供が参加しやすそうなものがあればぜひ参加したい。わからない事を気軽に聞ける所があるといい。わかるともっと興味がわくと思う。植物で食べられることがわかると感動する。

参加者 2 滝野すずらん公園の森でボランティアの人が無料で色々な事を教えてくれるツアーがあるのでそれを利用してみるのもいいのでは。

参加者 1 滝野すずらん公園はぜひ行ってみたい。子供も大人も一緒に参加できるものがあればいい。ツアーがあることを知らない人が多いと思うので情報が手に入りやすくなるといい。

### 3 全体まとめ

#### 【グループワーク1】

テーマ1:どのようなきっかけがあれば、生物多様性の保全に関心を持つか

##### グループ①

- ・身近な所、家の庭や近所で見かけてから興味を持って調べている
- ・「かわいい」から入って興味を広げていく事も大事

##### グループ②

- ・身近な動物を見ている。鮭、植物、家庭菜園など
- ・テレビだと「危険」がキーワードになる
- ・自分たちが普段食べているものを考える事が大事
- ・実際に生き物を育てて世界を広げていく
- ・とにかく外に出るのが大事

##### グループ③

- ・外に出ることが大事
- ・身近な環境から気づいたことがあった
- ・環境が変わった時偶然見たものから興味
- ・生き物を五感で感じとることで関心が増えていった

#### 【グループワーク2】

テーマ2:生物多様性の保全について、どのような取り組みがあれば参加したいと思うか

##### グループ①

- ・調査に取り組んでいる人もいる。身近な所から観察会や勉強する機会などを作って興味を持ってもらうステップを作る事が大事
- ・入口を色々設ける。公園に行ったら学べるなど、色々な人が興味を持ってもらえるような取り組みを作るといい

##### グループ②

- ・活動に参加するだけでなく、普段できること(節約・生ごみの扱い方など)も関係するのでは
- ・参加しづらい理由:わざわざ行かなくてはいけない、開催されている事がわかりづらい
- ・食べているものを見直す事が重要
- ・学校の授業でもっと取り扱ってほしい
- ・人に上手に広めていく事が重要

##### グループ③

- ・気軽に情報交換や、詳しい人に聞けたりする環境があるといい
- ・色々な活動に出向いてみるのが大事
- ・イベントの情報をわかりやすくしてほしい
- ・子供が参加できる山の活動などもあるといい